

<p>共通注意事項</p>	<p>メインジャッジは、競技の進行を円滑にするため、サブジャッジ及び選手に対して必要な指示を行うことができる。</p> <p>サブジャッジは、判断できないことが生じたときは、メインジャッジに相談して、その判断を仰ぐものとする。</p> <p>選手が競技レンジ内での試射を希望した場合は、試射箱内に撃たせること。試射箱がないときは、安全な方向に撃たせる。</p>
<p>競技開始前の選手確認</p>	<p>パーソナルデータを受け取り、ナンバー・氏名を確認すること。</p> <p>第1競技の場合は、パーソナルデータの「銃検査」の項目全てにチェックがあること、「検印」があることを確認する。</p>
<p>競技開始前の安全確認</p>	<p>★銃口カバーが装着されているか</p> <p>★眼の保護具（ゴーグル、眼鏡など）をかけているか</p> <p>※上記事項がなされていない場合、選手に指示して完了させる。</p> <p>★銃口カバーまたは眼の保護具装着を装着していない選手に対しては「注意（W）」を与える。</p>
<p>「銃口カバーを外してください」</p>	<p>①ターゲットのセッティングが完了していること</p> <p>②競技レンジ内に人が立ち入っていないこと</p> <p>③銃口カバーを外せば直ちにサイティング練習に移れる準備ができているか</p> <p>この3点を確認してコールする。なお、メインジャッジは、サブジャッジに対し、選手の準備が完了したかどうかを確認し、合図を受けてからコールすることも認められる。</p> <p>★選手が銃口カバーを外した後は、銃口が下方など安全な方向を向かないとき、「注意（W）」を与える。</p>
<p>「セフティをかけた状態でサイティング練習を行ってください」</p>	<p>サイティング練習は1回のみ。1回サイティングして腕を下ろし、また上げてサイティングすることは認められないので「注意（W）」を与えること。</p> <p>ブルズアイ競技の第2ステージ・ライフルプレート競技の第2ステージでは、サイティング練習は行わないので注意。</p> <p>★何度も腕を上げ下げしたり、30秒以上サイティング練習を行ったりする選手に対しては、タイミングを見計らって「よろしいでしょうか」と声を掛けて終了を促す。</p> <p>★サイティング練習中も、トリガーに指が触れてはいけい。明らかにトリガーに指が触れている選手には「注意（W）」を与える。</p>
<p>スタンバイ姿勢（ハンドガンクラス）</p>	<p>（ブルズアイ競技・プレート競技・シルエット競技のスタンディング。なお、プローンはシルエット競技編に別記）</p> <p>①腕は曲げない</p> <p>②トリガーに指をかけない</p> <p>③セフティ解除、コッキング完了（プレート競技以外は「レディ・ゴー」の後でも可）</p> <p>④腕と銃口を下方45度以下に保つ</p> <p>⑤ラインを踏まない</p>
<p>スタンバイ姿勢（ライフルクラス）</p>	<p>①トリガーに指をかけない</p> <p>②銃口を下方45度以下に保つ</p> <p>③ラインを踏まない</p> <p>④セフティ解除、コッキング完了（ムーバー競技以外は「レディ・ゴー」の後でも可）</p> <p>※ライフルクラスでは、下方45度以下のスタンバイ姿勢で弾こぼれが起こる場合、腕を下げきり、銃を平行に保つ「変則スタンバイ姿勢」も認めます。</p>
<p>その他</p>	<p>メインジャッジの「競技終了！」のコールの前に競技を終えた選手については、終了コールまでレンジ内で静かに待機してもらうこと。</p> <p>競技開始前（スタンバイ・レディ・ゴーのコール前）に担当選手からストップ（中断）の要請があった場合、サブジャッジはメインジャッジに「ストップ」と声を出して伝えること。また、メインジャッジは、自らの担当選手からストップの要請があった場合も、同様に声を出して伝えること。</p>